横浜市立若葉台小学校　学校だより　１２月号　　令和２年１１月３０日

のびのび若っ子

人権週間によせて

校長　中島　早苗

令和２年も残すところ、あとわずかとなりました。つい先日まで、中休みには、黄色く色づいた校庭のいちょうの木の下で、葉を使って楽しく遊ぶ１年生の姿が見られましたが、その葉もだいぶ少なくなりました。日ごとに本校の風景も、冬の装いに変わってきていますが、寒さの中でも、子ども達は元気いっぱいの姿を見せています。

７月の給食の再開時から私が続けていることがあります。給食を食べている時間に、給食で使われている食材や栄養に関するおたよりの「ぱくぱくだより」を校内放送で読むことです。オルゴールの音楽を小さく流しながら、個々の席で前を向いて食べている子ども達の心に届くように読むことを心がけています。いつの頃からか、登校時の挨拶とともに、感想や感謝の気持ちを伝えてくれる子ども達が多くなってきました。中には、うなずきながら、やりとりを見ている子、放課後に自分の思いをそっと伝えてくれる子、笑顔で励ましてくれる子もいます。表現方法は様々ですが、何ともいえない温かいものが心の中に沸き上がり、今では私の楽しみの一つになっています。若葉台小学校の子ども達の優しさに改めて気づくとともに、自分の行動が受け止められている喜びを一人ひとりが感じることができることの大切さを痛感します。

さて、１２月１０日は世界人権デーで、その前の１週間は人権週間です。本校では、１２月１日（火）から１２月１１日（金）までを人権週間として設定し、取り組むこととしました。 本校の学校目標にある「自他共に大切にする心」は、まさに人権のテーマであります。周りの人を大切にするには、自分を大切にすることも重要であると考えます。

人権侵害の多くは、自分との違いから生まれます。自分と相手との間に差を感じたときに差別という感情が生まれてくるのかもしれません。人権週間では、児童自らが身近な問題に気づき、互いのよさや違いを認め、一人ひとりが安心し豊かに生きるために、自分たちの力で問題を解決をしていこうとする心情を育てることをねらいとして、プログラムに取り組みます。また、一人ひとりが他者に受け止められている喜びを感じることができる望ましい人間関係や学級学年学校の雰囲気を醸成できるように教職員一同で取り組んでいきます。

令和２年の年が暮れます。最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様、日頃より本校にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

どうぞ、よいお年をお迎えください。令和３年も引き続き、よろしくお願いいたします。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にする心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』